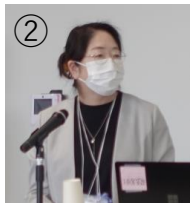


<在宅遠隔医療部会在宅看護分科会>

6/7、新キャンパスで第7回わい和いNARA在宅サポート研究会 「災害時に備える、つながるー在宅療養者の支援ー」でシンポ他を実施



・奈良県の在宅サポートの在り方を研究する目的で設立された「わい和いNARA在宅サポート研究会」（会長：奈良医大看護学科在宅看護学：小竹久実子教授（写真①）が6月7日（土）新キャンパス大講義室で研究会発表会を開催しました。

『災害時における在宅療養者の支援』をテーマに、医療・看護や行政関係者約100名の参加の下でシンポジウムやパネルディスカッションが行われました。

・第7回の大会長を務められた池之畑直子氏（橿原訪問看護ステーションやわらぎの郷所長、写真②）は“在宅療養者が増加する中で、南海トラフ地震等の自然災害に備え、地域の医療・介護・福祉・行政のつながりが重要だ、そして日ごろ在宅療養者の病状やADL、生活環境、家族背景等を踏まえ支援している訪問看護師は地域の資源を最大限に活用する準備が必要であり本日は一緒に考えたい”と挨拶されました。

・シンポジウムでは、在宅療養者に関わりを持つ行政・民間企業と、医療的ケア児ご本人の3者が登壇し、以下のような話題を提供して会場から質問を受けました（写真③）。

・本木隆規氏（奈良県福祉保健部医療政策局参事、写真④）は大規模災害時の災害対策体制ICS（緊急時総合調整システム）を、島勝紅氏（株）リハビリ訪問看護ステーションルピナス統括看護部長、写真⑤）は奈良市の訪問看護ステーションにおける連携BCPを、車いすに横たわりながら登壇のラーセン症候群に罹患の宮崎響氏（生駒市内中学3年生、写真⑥）は自らの災害時避難について、話題を提供しました。



お知らせ
MBTコンソーシアムからの

貴社の新製品開発において、
「正しい医学的知識」が必要な時はありませんか！
「医学的評価（エビデンス）」が必要な時はありませんか！
お気軽にご相談ください

会員企業様が奈良医大の医学知識を身近に活用できる仕組み



- ①：会員企業から医学活用相談
- ②：MBTコンソーシアム事務局と奈良医大MBT研究所が相談窓口でヒアリング
- ③：相談内容に最適な医学者の人選を教授や研究者に打診
- ④：相談内容に最適な医学研究者や医療者を回答
- ⑤：会員企業と医学者との会議設定、その後の共同研究等への展開やコーディネート支援

発行

（一般社団法人）MBTコンソーシアム、
奈良県橿原市四条町840番地研究推進課内
TEL：0744-29-8853（直通）、FAX：050-3164-5598、

（公立大学法人）奈良県立医科大学
担当 塩山

Email: mbt@mbt.or.jp